

テレコム99特集

ネットワークベース・システム・ソリューションゾーン

Network Base System Solution Zone

竹内 敏 尚
Toshihisa Takeuchi

藤 高 敦 子
Atsuko Fujitaka

要 旨

当社のテレコム99展示の中で、ネットワークベース・システムソリューションのゾーンに、ネット決済システムである「インターネットペイメントシステム」を出展した。提案システムは、アプリケーションが要求するQoSに従ったアクセスを可能とする。

1. ま え が き

昨今のPC、インターネットの普及がECの消費者への浸透を促進し、新たなビジネス機会を創出してきている。実際企業消費者間 (B-to-C)、消費者間 (C-to-C) ECの市場は非常に有望である。しかし、それも課金とセキュリティの仕組みが確保できるというのが前提である。テレコム99では、当社のECへの取り組みの中からB-to-CおよびC-to-C市場での安全な決済システムを紹介した。

2. インターネット少額決済

音楽や文献、料理レシピ等の、デジタルコンテンツをネット上で取引しようという要求が高まってきている。さらにはネットゲーム、くじ、これらがネット上で簡単に決済できれば市場は時空間を超えて拡大する。しかし、これらの取引の対象となるのはいずれも少額で、しかも1円単位での価格設定が可能なが望ましい。

この場合、重要なのはネットワークへのコスト負担がかからない、つまり手数料が軽減できる決済システムを構築するということである。その有力候補の一つがICカードベースの電子マネーである。

当社は、ICカードベース電子マネーのリアル分野で実際の市場に導入し、高く評価されている。その経験とICカードの特性を最大限に生かし、ネット決済に応用したのが、テレコムのコーナーで紹介したペイメントシステムである。この場合、ICカードに格納されたマネーが他者のICカード内のチップに移動することにより決済が完了するものである。当社はこのICカード上のチップ間価値転送のグローバル特許を有しており、それに基づいてシステムを構築した。

この決済システムはリアルとインターネットの両方の世界で使用可能で、信用照会も不要であり、ハンドリングコストが低く抑えられ、特別な加盟店契約もいらない。安心してネット上のマネー移動が可能なのは電子署名や暗号がアプリケーションレベル、すなわち、ICカードに実装されているからである。

図1に示した決済システムにおいて、金庫内にはICカードが格納されておりE-マネーサーバ間で価値転送が行われ決済される仕組みである。限られたエリア、たとえば「○○クラブ」会員等であれば個々人がICカードを持たなくてもメンバー名を登録すれば電子マネーのネット決済が可能である。



竹内敏尚

システムソリューション
ビジネスグループ
カスタマコンタクト
システム事業部 ソリュ
ーション企画部長



藤高敦子

システムソリューション
ビジネスグループ
カスタマコンタクト
システム事業部
ソリューション企画部
担当課長

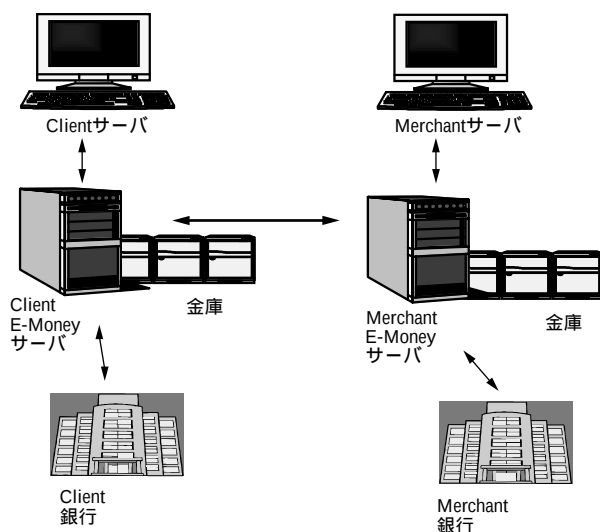


図1 決済システム
Fig. 1 Payment system

さらに、この決済システムは携帯電話のネットワークにおける課金にも応用可能である（図2参照）。

3. ネットワークにおける個人認証としてのアイリス認識システム

今回テレコムで紹介したシステムにおいて、もう一つの重要要素はアイリスをネットワークの個人認証に利用したことである。

アイリス認証システムのアプリケーションとして、入退室管理等のアクセスコントロールやATM (Automated Teller Machine) のPIN暗証番号との併用等、すでに各国でフィールドトライアルが稼働している。当社も早くから技術およびアプリケーション開発に着手しており国内銀行のバックオフィスのアクセスコントロール等でトライアルを行っている。今当社が最も着目しているアプリケーションはネット上での本人確認である。たとえば、金融ネットワークにおいて、個人アイリスを登録していれば、通帳や印鑑、キャッシュカードが紛失した場合でも心配ない。突如発生した阪神大震災においても預貯金のトラブルが後を引き、悲劇を増大させた。今後、災害をはじめとする予測不可能な事態に対処するリスクマネジメントとしても社会システムとして必要になってくるであろうと思われる。

図3は金融ネットワークにアイリス認識を用いた場合のシステム構成図である。

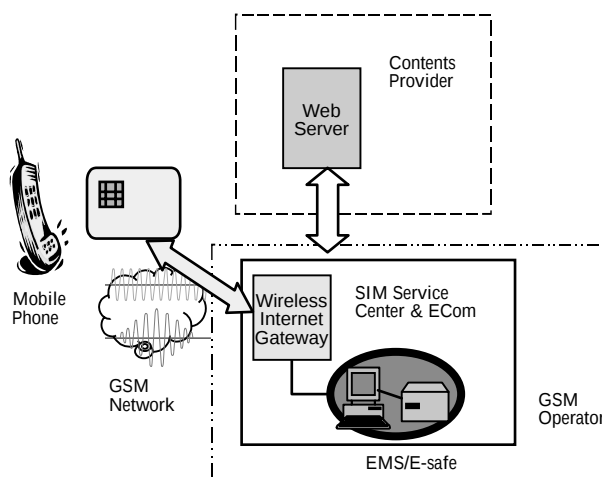


図2 携帯電話への応用
Fig. 2 Application to mobile system

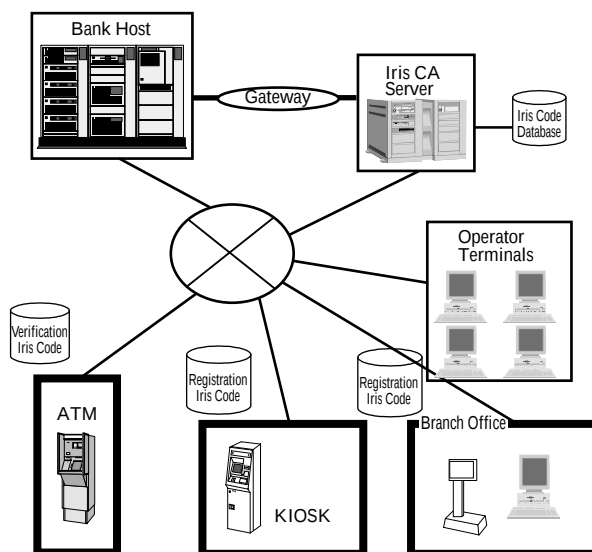


図3 金融機関IRIS CAシステム
Fig. 3 Banking IRIS CA system

4. あとがき

テレコム99では携帯電話にアイリス認証および課金システムを応用できないか、という質問が多かった。今回テレコムで展示した内容をモバイルコミュニケーションにどのように生かしていくか、というサービスフォーメーションを含めたビジネス開発が今後の最大の課題といえよう。